

人を包む形——世界の家巡り

小松 義夫 文

私は、世界中を訪ねて、人がいて家があるという風景を、たくさん写真に撮ってきました。

ボリビアには、高さ三千五百メートルの高原に、どんぐりのような形の家がありました。塩分の多いこの土地に、しっかりと根を張る草がありません。人々は、根の張った土をブロック形に切り出して、積み上げて家を作ります。



屋根に目のような窓のある家(ルーマニア)

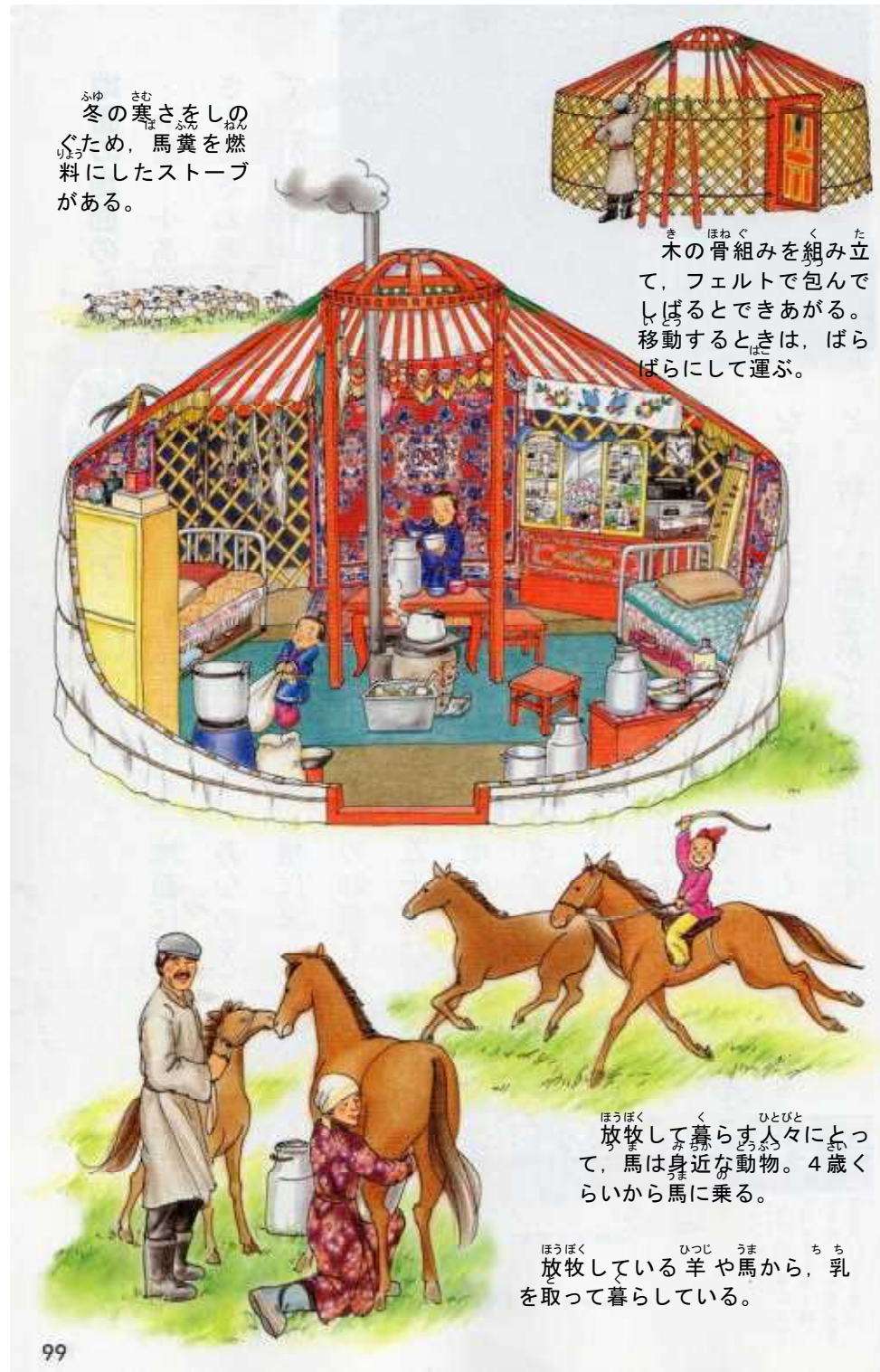


どんぐりのような形の家(ボリビア)

ルーマニアでは、森の近くの村に、屋根まで木の板でできている家がありました。その屋根には、まぶたが付いた人間の目のような、煙出しの窓がついています。冬は雪が多いので、雪が落ちやすいように、屋根の傾きを大きくしています。

どの家も、その土地の特徴や人々の暮らしに合わせて、地元にある材料を使い、工夫して作られています。

では、私の訪ねてきた世界の家を紹介しましょう。

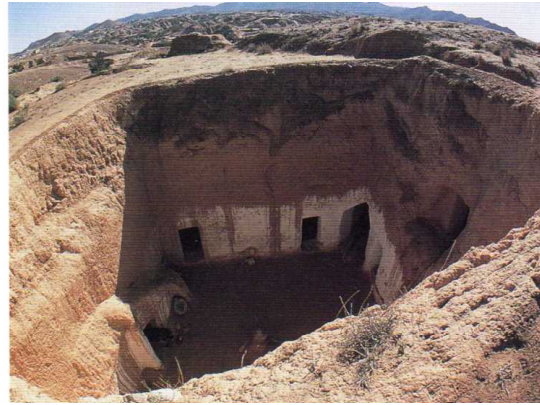
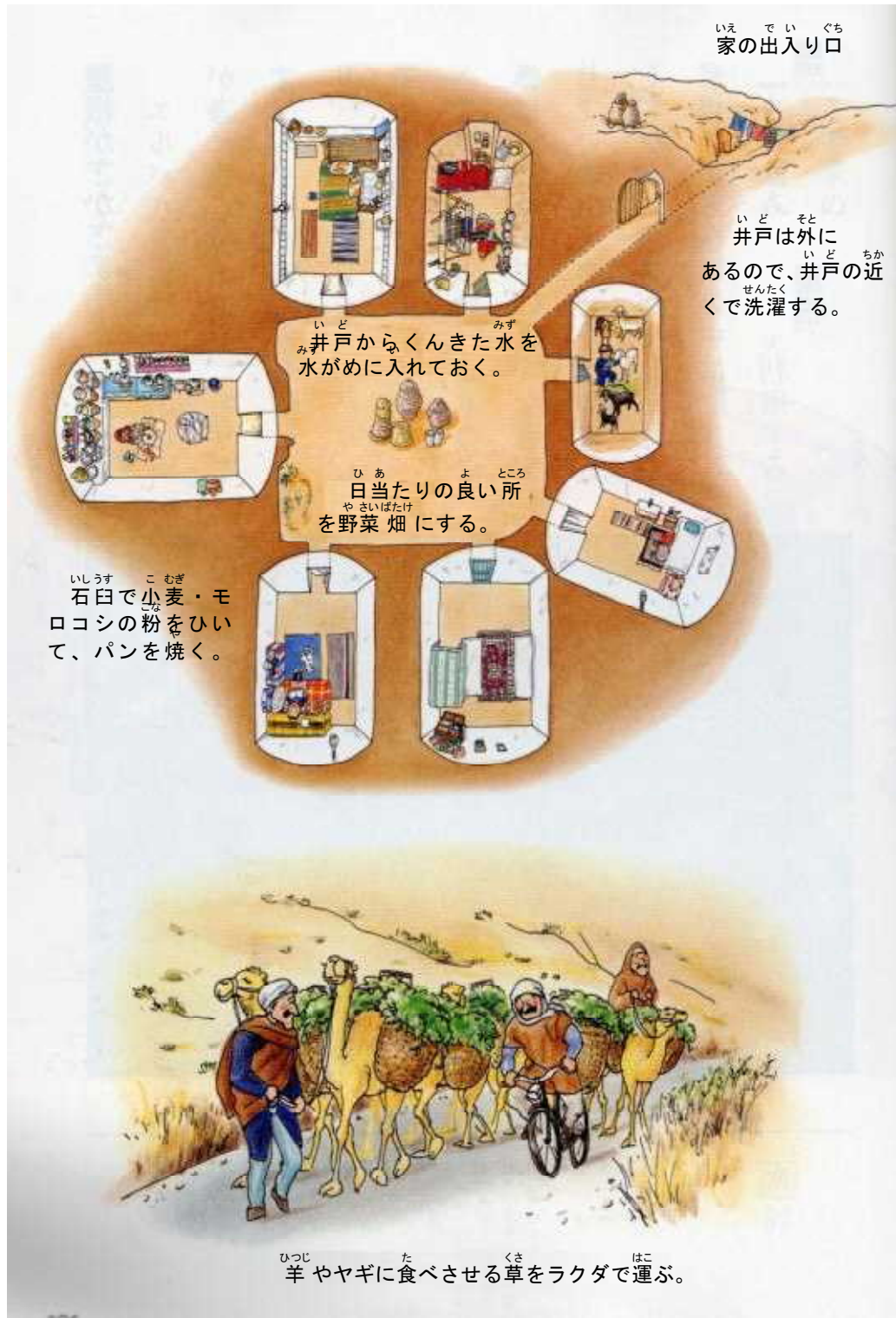


大草原の白い家——モンゴル

見渡す限りの草原に点々と白いものがあります。近づくと、それは何かを包んだような形をしているのが分かります。羊や馬を放牧して暮らす人々の家、ゲルです。

ゲルは、移動できる組み立て式の家で、水を手に入れやすく、羊や馬が食べる草が生える所に建てられます。家の骨組みは木でできていて、その骨組みをフェルトでおおうと、すぐに家を組み立てることができます。

フェルトは羊の毛でできているため、厳しい冬の寒さをしのぐことができます。



地面の下で暮らす——チュニジア

小高い丘に登ってマトマタの村を見下ろすと、地面に穴がたくさんあいて
 います。実は、ここに家があるのです。穴の底が中庭で、片すみに小さな野
 菜畑があります。中庭から横に掘った穴が部屋になっていて、羊やヤギの部
 屋もあります。

この辺りの気温は、夏は五十度に近く、冬はれい度より下がりますが、
 地面の下の部屋の中は一年中二十度から二十八度
 で、過ごしやすいのです。雨が少なく、水はけの良い土
 地なので、部屋の中に水が入ることはありません。
 家族が増えて部屋が足りなくなると、横に穴を掘
 ります。穴の中をじっくりで白くぬると、新しい部屋が
 できあがります。

屋根が逆さま——セネガル

エルバリン村は、大きな川が海に注ぐ所の近くにありますが。人々は、田で米を作ったり、川で魚や貝をとったりして、生活しています。

この村の中心にある家の屋根は、じょうごのような形をしています。井戸を掘っても塩からい水しか出ないため、屋根で雨水を家の中に取り込んで、飲み水として利用するのです。



この家の屋根は、米を収穫した後にできるわらで作られ、近くにたくさん生えているマングローブの幹で支えられています。



さかなをとる仕掛けかご

マングローブの根に付くカキをスープにする。

こめ たっこく つか うす きね 米の脱穀に使う臼と杵